

ずいひつ No.97

2014年4月25日発行

新年度の始まりは「ともだちひやくにんできるかな」

私は先日新聞で、詩人まど・みちおさんの訃報を知りました。まど・みちおさんとは、童謡「ぞうさん」「やぎさんゆうびん」「一ねんせいになったら」などの作詞をされた方ですが、多くの方は小学校の国語の教科書で、まど・みちおさんの詩を読んだことがあると思います。覚えがありませんか？

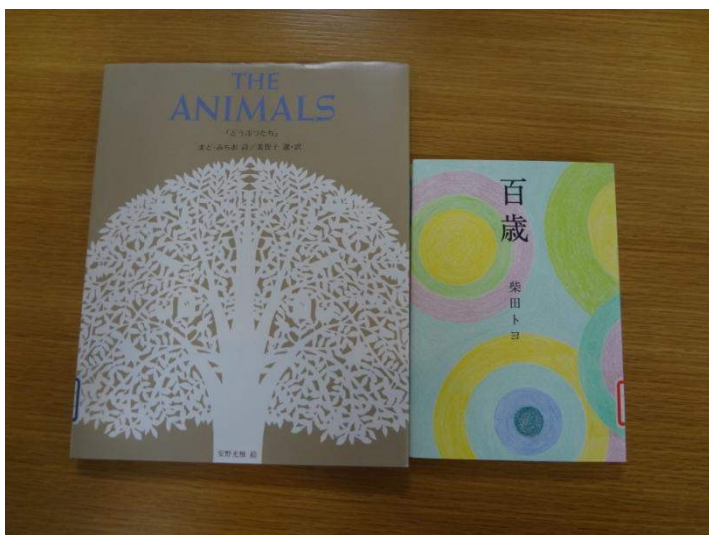
小学生の時、「まど・みちお」というひらがなの名前がとても気になりました。おそらく低学年の頃のことで、教科書に出てくる他の人の名前は漢字なのに、どうしてひらがなのだろう？と。「みちお」という名前は一般的としても、「まど」はとても変わった苗字だと思い、人に聞いてみたくらいです。ペンネームというもの存在をその時初めて知りました。さらに、「まど」と「みちお」の間にある「・」を見て、自分の姓と名の間にも点を入れなければならないのだと思い、あわてて学校で使っていた教科書やドリルのなまえ欄に「・」を書き加えました。(キャンディ・キャンディも間に「・」がありますから！)

教科書には沢山の人の名前が出てきます。大人になった今どんな方がそこに載っていたのか、正直なところあまり思い出せませんが、まど・みちおさんは覚えていました。授業中考え事やよそ見ばかりしていた私にとっては、ひらがなの名前と姓と名の間の「・」の力でしょうか。

さて新年度に入り、新しい出会いがいくつかあったと思いますが、その新しく出会った方に印象付けることは出来たでしょうか？あなたはこれから仲良くしたい人に、あなたの何から覚えていただきますか？多くの人が行き交う世の中で、私みたいな相手をぼんやりしか見ない人にもくっきり見えるように工夫してほしいものです。新年度の始まりは、いつもまど・みちおさん作詞の童謡「一ねんせいになったら」を歌った頃のような気持ちになる事を心がけると良いと思います。

ところでまど・みちおさんは今年2月28日に老衰で亡くなったそうですが、私は104歳という年齢に驚きました。百歳を超えている方の詩といえば、柴田トヨさんの「百歳」でしょうか。年齢を重ねたからこそその詩、年齢を超えて共感できる詩などありますが、百歳という高齢で詩集を出せる力、きっと息子さんはじめ周りの方に恵まれていらしたのだと想像します。柴田トヨさんも昨年1月に老衰で亡くなったそうです。

ご本人が亡くなられても、どこかの場所や、誰かの中に残る詩。私は訃報をきっかけに、蔵書検索することがあります。柴田トヨさんの詩集「百歳」は楠元に所蔵しています。まど・みちおさんの場合は「THE ANIMALS



どうぶつたち」という皇后美智子さまが英訳された詩集の所蔵が楠元にありました。日本語と英語が見開きで並んでいます。じっくり左右、読んでみてください。英語が苦手でも好きになれるのではないのでしょうか。日本語も今より大事にしたいかなと思います。今回は装本デザインの安野光雅さんについてまで語る余裕が無くて残念ですが、絵本のように小さな子に読み聞かせるのもおすすめです。私にはどちらの本との新しい出会いも素晴らしいものでした。

(貸出返却担当 T美)